

登録コード	UAF29500	開講年度	2026			
授業題目	発達心理学特論				担当教員	水口 崇
					副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	金曜・3時限	
				授業形態	講義	
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				⇔	【授業の達成目標】
	2 4UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 4UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学, 2 3UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学					
	【研究科共通】自身の専門分野における高度な知識と技能を有する。				⇔	知識と技能を得る
	【研究科共通】量的・質的分析方法を身につけると同時に、各領域独特の解析手法を学習し、分析力を培うとともに、領域間における手法の差異を認識することにより、各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。				⇔	応用力を身につける
	【研究科共通】多領域のステークホルダーを動員し、地域・社会の課題に対して主体的に取り組み、問題解決に不可欠な統合的なシナリオを提示する提案力を有する。				⇔	提案力を育成する
	【研究科共通】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。				⇔	俯瞰的な視野を得る
	【研究科共通】人文・社会科学分野の地域中核人材・研究者として備わっているべき倫理観を有する。				⇔	倫理観を醸成する
	2 4UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 3UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学					
	【心理・長野臨床以外】心理学分野の高度な知識・技能を有する。				⇔	
	【心理・長野臨床以外】量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に応用する能力を有する。				⇔	
	【心理・長野臨床以外】多領域のステークホルダーを動員し、地域・社会の課題に対して主体的に取り組みながら、独創的な提案を行う力、問題解決に不可欠な総合的なシナリオを提示できる提案力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する効果的な支援を提案できる能力を有する。				⇔	
	【心理・長野臨床以外】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。				⇔	
	【心理・長野臨床以外】心理学分野の地域中核人材・研究者として備わっているべき倫理観を有する。資格取得を目指すものは、さらに専門職としての法的義務や倫理についての知識を有する。				⇔	
	2 4UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学					
	【心理・長野臨床】心理学分野の高度な知識・技能を有する。				⇔	
	【心理・長野臨床】量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に応用する能力を有する。				⇔	
	【心理・長野臨床】多領域のステークホルダーを動員し、地域・社会の課題に対して主体的に取り組みながら、独創的な提案を行う力、問題解決に不可欠な総合的なシナリオを提示できる提案力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する効果的な支援を提案できる能力を有する。				⇔	
	【心理・長野臨床】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。				⇔	
	【心理・長野臨床】心理学分野の地域中核人材・研究者として備わっているべき倫理観を有する。資格取得を目指すものは、さらに専門職としての法的義務や倫理についての知識を有する。				⇔	
	2 6UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 6UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学, 2 5UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 5UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学					
	【心理】心理学分野の高度な知識・技能を有する。				⇔	高度な知識・技能
	【心理】量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に応用する能力を有する。				⇔	相談及び助言に応用する能力
	【心理】多領域のステークホルダーを動員し、地域・社会の課題に対して主体的に取り組みながら、独創的な提案を行う力、問題解決に不可欠な総合的なシナリオを提示できる提案力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する効果的な支援を提案できる能力を有する。				⇔	効果的な支援を提案できる能力
(2)授業の概要	ヒトの発達の諸相について講義する。主に認知や言語、及び社会性とパーソナリティの発達を扱う。言語や認知については、ヒト固有の能力の発達を明確にするため、ヒト以外の霊長類と比較したり、ヒトが有する社会制度や人工物がその生態に与える影響を論じたりする。社会性とパーソナリティの発達については、ヒトのコミュニケーションの特徴や社会の構造やその変化から論じる。					

(3)授業計画	第1回： オリエンテーション 第2回： 知識の起源 第3回： 記号設置問題と身体論 第4回： 言語獲得－最新の理論－ 第5回： 累進的文化進化とヒト固有の精神機能の発達 第6回： 認知的人工物と文化 第7回： 道具の身体化と身体の道具化 第8回： 文化学習とヒトの模倣 第9回： 推論の発達 第10回： 状況／埋め込み論の始まりと現状 第11回： 社会的媒介論 第12回： 現代青年の心理構造 第13回： パーソナリティの連続性 第14回： 青年期以降の諸問題【授業アンケートの実施】
(4)成績評価の方法	成績評価の考え方は、次の通りである。 ・授業中の小レポートにより、みずからが考え、自己啓発に努めることができるかをみる（40%）。 ・計4回の中レポートにより、授業を通して考えたこと、気づいたことについて問う（60%） ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可
(5)成績評価の基準	授業で解説した内容と同レベルの内容が書かれていれば「水準にある」、より高いレベルの内容が書かれていれば「かなり上にある」、やや高度なレベルの内容が書かれていれば「やや上にある」、非常に高度なレベルの内容が書かれていれば「卓越している」。
(6)事前事後学習の内容	毎回の授業時に指示される課題内容について、当該テーマの研究の背景や関連する事柄の調査、授業で学んだ内容を拡張する目的で、さらに広く深く文献研究を行うなど、事前・事後の取り組みを行い授業に臨むこと。
(7)履修上の注意	取り扱った内容のみでなく、予習や復習によって知識や見解を広げ、研究とそのまとめ方を深く理解すること。
(8)質問,相談への対応	水口崇 mizutaka@shinshu-u.ac.jp
【教科書】	特に無し
【参考書】	適宜紹介する